

# 景気景況調査報告

(第30回)

令和5年	4～	6月期	実績
令和5年	7～	9月期	見通し

令和5年8月

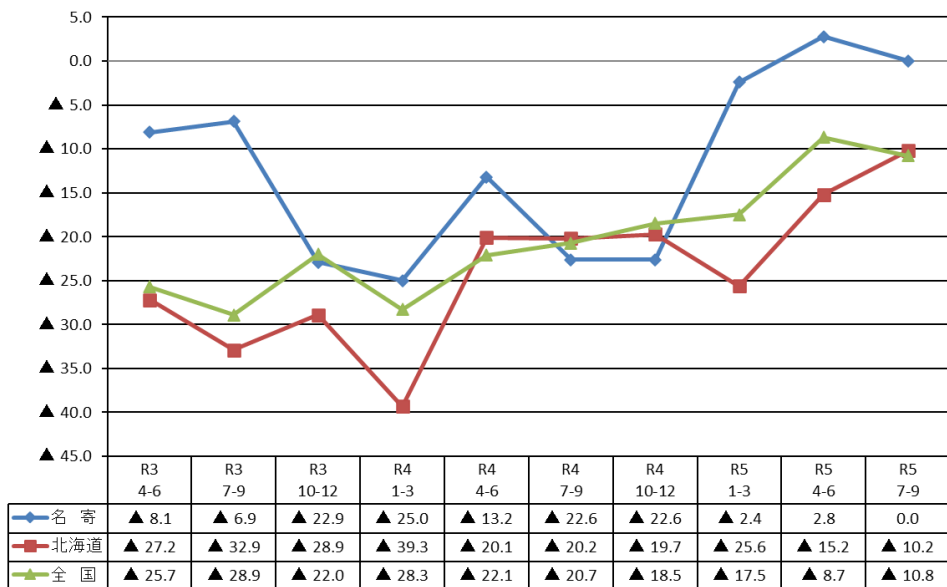
名寄商工会議所

## I 調査要領

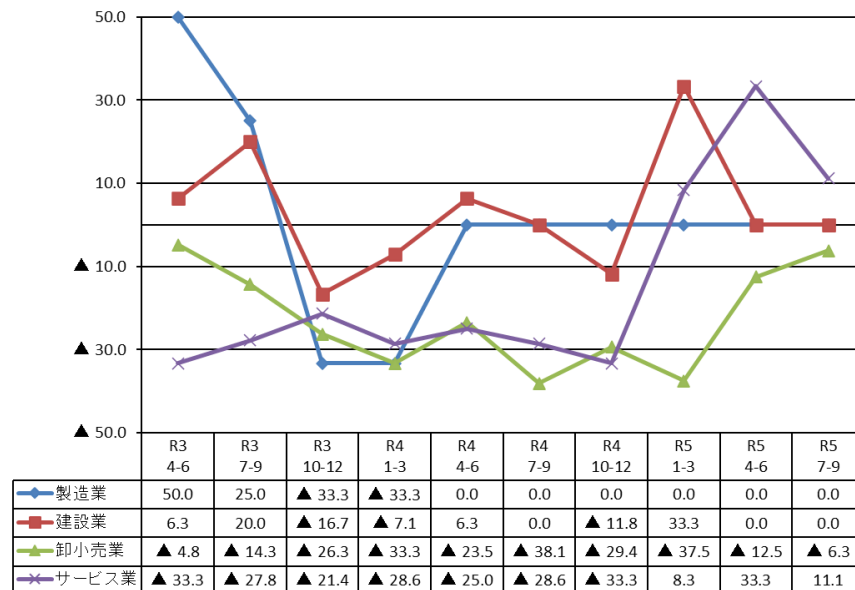
- ①調査対象期間 令和5年4～6月期の実績及び令和5年7～9月期の見通し
- ②調査内容 製造業、建設業、卸小売業、サービス業の4業種に分類し、売上高、採算、仕入、販売、従業員、業況、資金繰りの7項目について調査を実施。
- ③調査対象 当所会員企業（メール・FAX・Google Formで協力願い） 120社

## II 調査結果

全業種平均業況DI



業種別業況DI

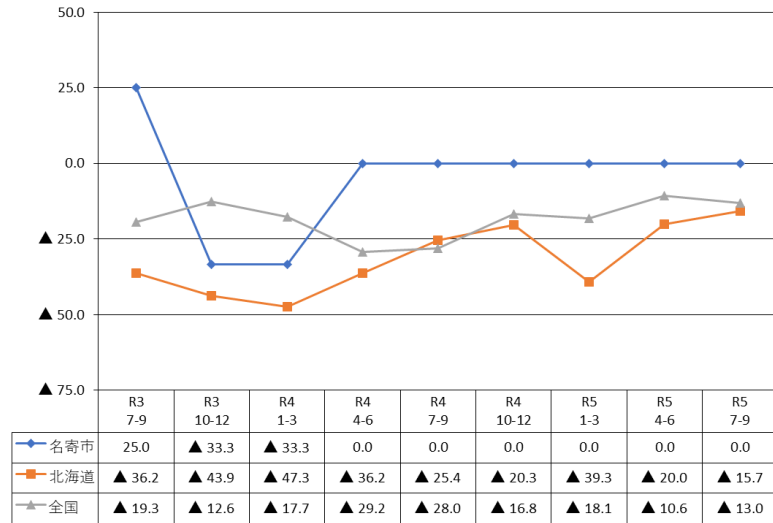


※DI：「好転」の回答企業と「悪化」の回答企業の差

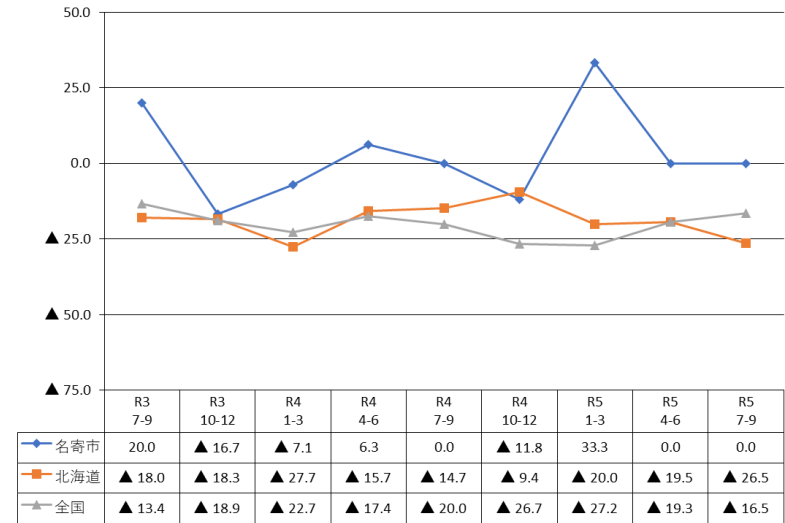
- ・今期、全業種平均で2.8ポイントと前回調査と比べて5.2ポイント増加となっている。
- ・見通しでは今期と比べ2.8ポイント悪化となり0ポイントとなっている。
- ・北海道（道商連調査）の景気を比較すると、今期18.0ポイント好転となり、見通しではマイナス幅が縮小する見込みとなっている。
- ・全国（日商調査）の景気を比較すると、今期11.5ポイント好転となり、見通しでのマイナス幅に変化はない。
- ・物価高騰や原油価格高騰等により、今後さらなる業況悪化が見込まれる。

# 業種別業況DI

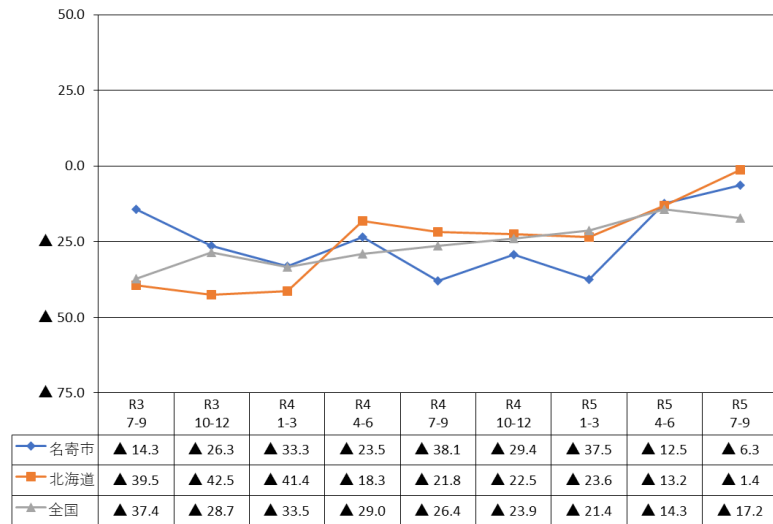
## 製造業 業況DI



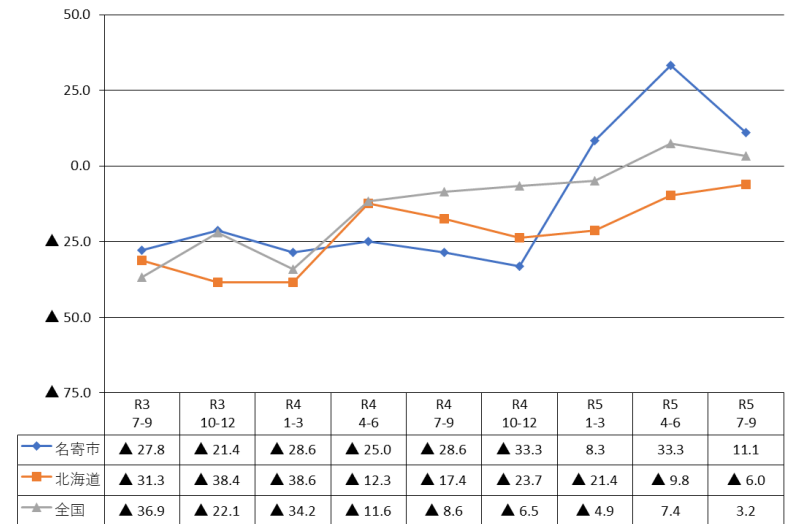
## 建設業 業況DI



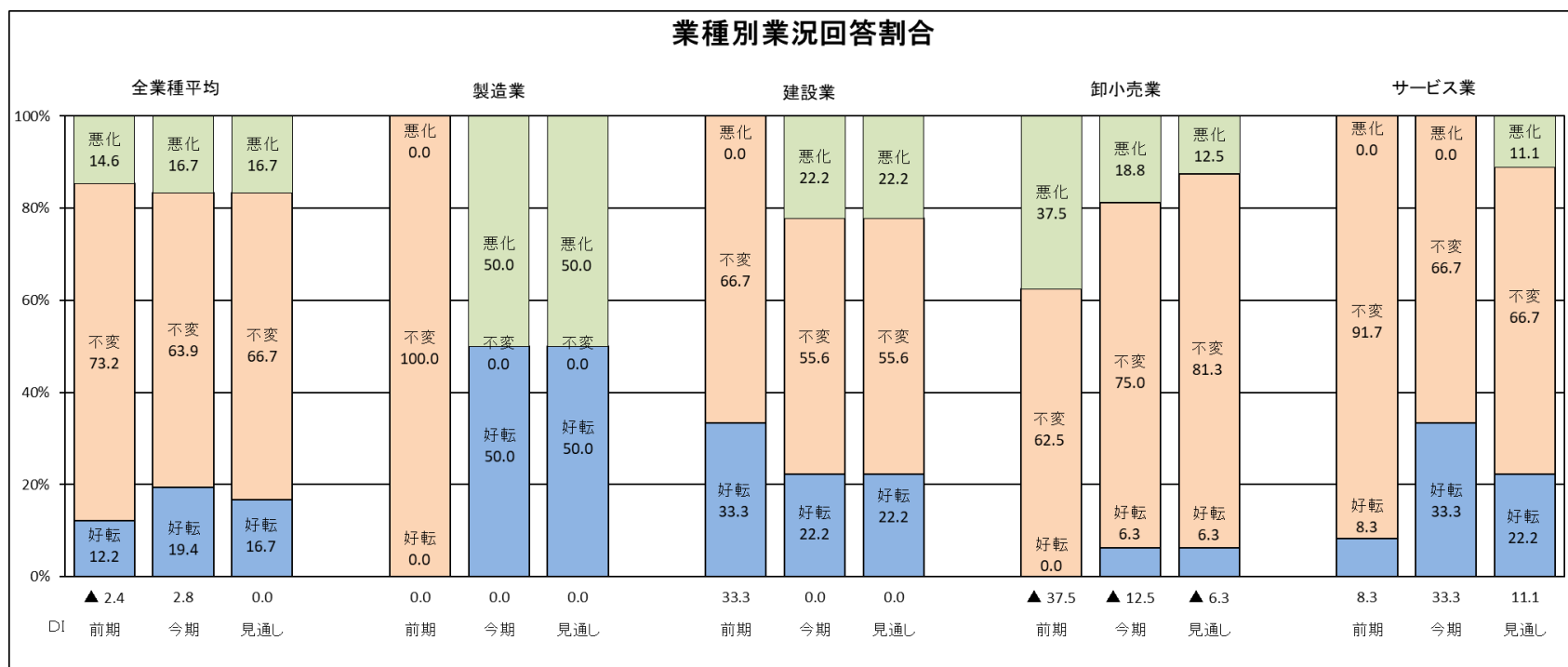
## 卸小売業 業況DI



## サービス業 業況DI



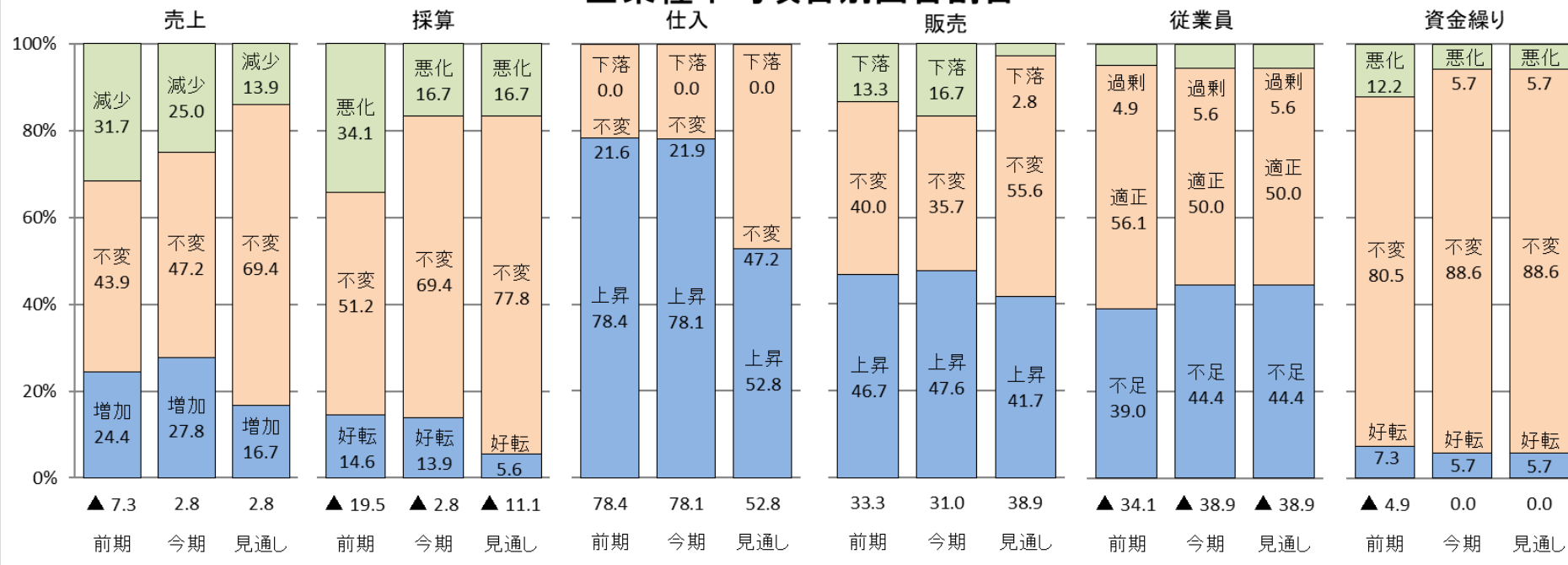
## 業種別業況回答割合



※DI：「好転」の回答企業と「悪化」の回答企業の差

- 製造業～ 今期・見通し共に、「悪化」と「好転」が半々の回答となっている。
- 建設業～ 今期・見通し共に、DIに変更はなく、0ポイントとなっている。
- 卸小売業～ 今期は前期に比べ、「悪化」が18.7%減少しており、「好転」の回答は6.3%となっている。  
見通しでは「悪化」が6.3%減少し、「好転」に変更はない。  
要因として、円安や原料高、物価高騰等がみられる。
- サービス業～ 今期は前期に比べ、「悪化」が0%となっており、「好転」は25.0%増加となっている。  
見通しでは「悪化」が11.1%増加となっており、「好転」は11.1%減少している。  
全体的に人口減少・仕入運賃増加・お客様の減少・若年層不足・求人難  
仕入単価増加・原油価格高騰・物価高騰等々の要因が挙げられている。

# 全業種平均項目別回答割合



## 売上 DI

[減少の要因]

今期▲2.8ポイントと前期より10.1ポイント増加となっている。見通しでの増減はない。

・資材の値上げ 消費者的買い控え ・物価高 ・物流の遅延 ・メイン客層の高齢化 ・客単価減

## 採算 DI

[悪化の要因]

今期▲2.8ポイントと前期より16.7ポイント好転となっている。見通しでは8.3ポイント悪化となっている。

・資材高騰 ・利益率の悪化 ・メーカーの大幅値上げ ・原油価格の高騰

## 仕入 DI

[上昇の要因]

今期78.1ポイントと前期より0.3ポイント下落となっている。見通しでは25.3ポイント下落となっている。

・仕入運賃の増加 ・原材料の上昇

## 販売 DI

[上昇の要因]

今期31.0ポイントと前期より2.3ポイント下落となっている。見通しでは7.9ポイント上昇となっている。

・原材料の上昇 ・メーカー値上げ ・製造コスト上昇

## 従業員 DI

[不足の要因]

今期▲38.9ポイントと前期より4.8ポイント不足となっている。見通しでの増減はない。

・高齢化 ・人口減少 ・若年層の不足 ・求人難 ・退職者増 ・仕事量の減少 ・職人不足

## 資金繰り DI

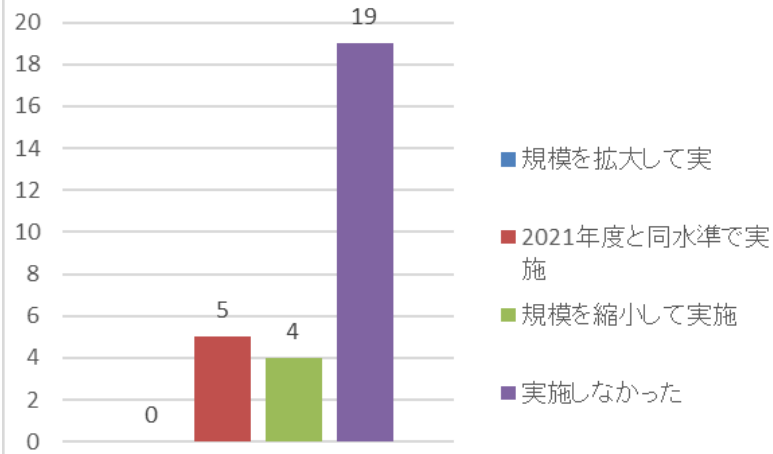
[悪化の原因]

今期▲0.0ポイントと前期より4.9ポイント好転となっている。見通しでの増減はない。

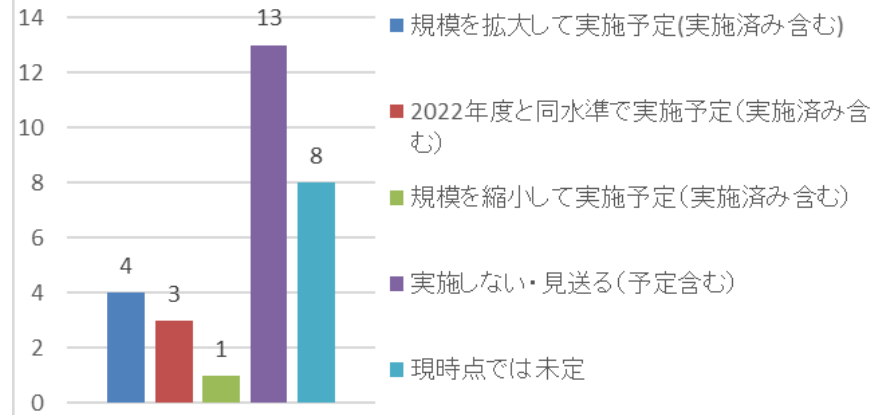
・コロナ融資利子開始

# 付帯調査①

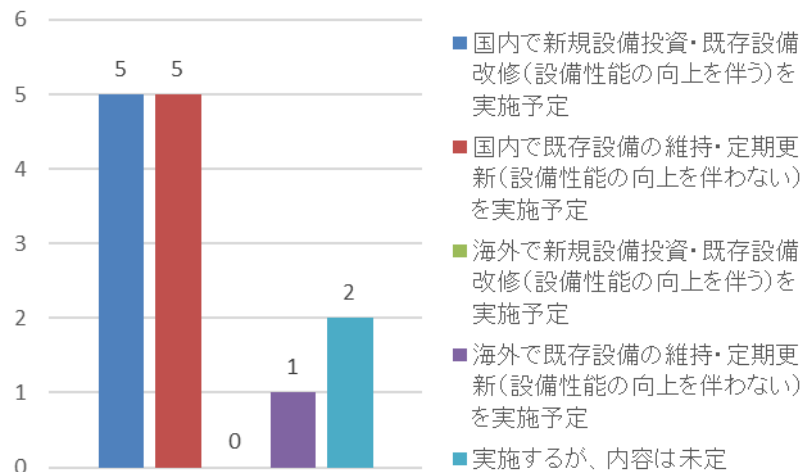
## 2022年度の設備投資(国内のみ)の動向



## 2023年度の設備投資(国内・海外問わず)の動向

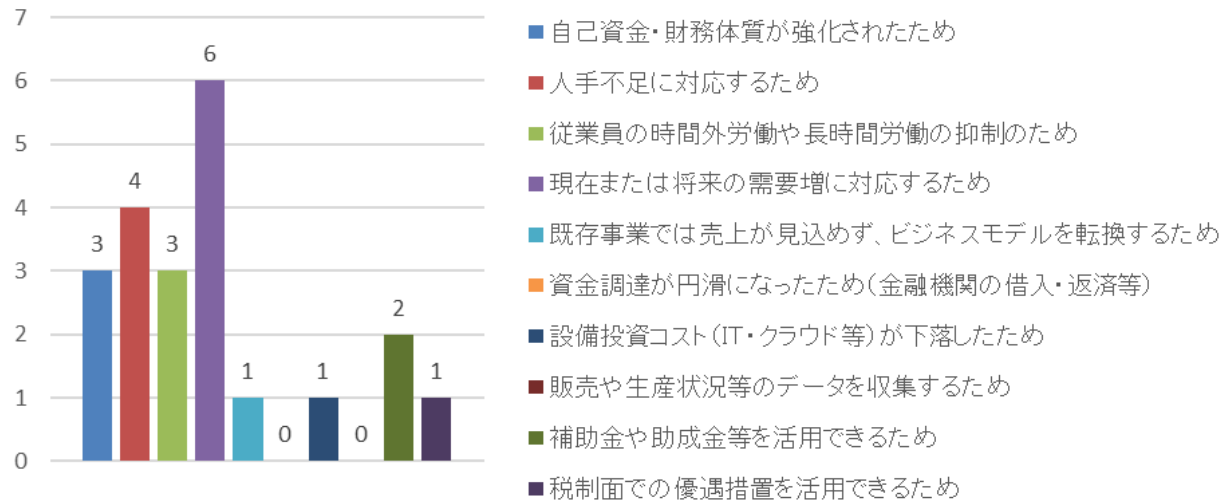


## 2023年度の設備投資の内容 ※複数回答可



## 付帯調査②

設備投資を行う理由 ※複数回答可



設備投資を行う目的 ※複数回答可

